審査の結果の要旨

氏 名　　垣野　義典

論文題目　　フリースクールの建築計画に関する研究

この論文は、学校で行われる公的教育に対して、それとは異なる教育のあり方を模索する動きが活発化する中で近年注目されているフリースクールを対象にして、その場を構成している人間的･社会的･空間的要素を分析し、今後同様な教育環境を計画する上での指針を得ることを目的としている。

本論文は、７章より構成される。

第 1 章では、学校教育の現状と子どもにとってのこれからの学びのあり方をとらえ、子どもの学びの場の一形態を代表する施設としてのフリースクールの研究を行う意義について述べている。

第 2 章では、　一般に必ずしも具体的に認知されていないフリースクールについて、特に建築計画的観点からの研究がほとんどなされていないことを確認し、日常の子どもの自主活動の実態をスペースの使用状況とあわせて分析し、建築計画上の課題として、1）登下校時間は各自自由であるため、活動人数は毎日時間帯によって異なり,その活動は他の子どもやスタッフとの相互の関係で影響を受けるため、その時の状況に応じた活動を捉える必要性があること、2）自由時間が大半をしめる活動は、時間･プログラムに対応した場所が必要で、面積的･空間的な制約を考慮する必要があること、3）複数活動、複数内での一人で過ごす行動、１人静かに過ごす行動にそれぞれ対応したスペースが必要で、これらがどのような性格の空間であるかをとらえること、の３点を抽出している。

第3章では、　現状のフリースクールが、どのような面積の部屋、家具、コーナーを備えているか調査･検討し、これらの部屋やコーナーと子ども達の一日の活動の対応関係をとらえ、どのような空間構成要素が求められるのかを考察している。

第4章では、時々刻々スペースの使用状況が変化し、異年齢の子ども達自身の手で作られ自由に活動できる環境にあって、①彼らが築いている関係、②この関係の建築空間との関連、の２点から、子ども同士の関係と空間との関係を

明らかにしている。また子ども同士の交流様態は、大きくは4種、細かくは9種に分類でき、各交流様態によって、他への関心度が異なるため、１人で活動する場合でも関わる場が異なること、また各交流様態からみた場と場との関係、そして全体として構造を示している。

第5章では、子どもとその活動･場所･時間における周辺環境との関係の総体を表す「子どもの居方」という概念の構築を行っている。具体的には、第4章で明らかにした各交流様態を示す子どもが、活動する際の特徴的な場面を分析し、「子どもの居方」を抽出している。そして、これらは大勢の他者がいる空間から離れて雰囲気が全く伝わらない場所で活動する「独立型」や、他者の活動の起点になる「起点型」など、8種に分類でき、さらにこの8種は、6種の居方意識モデルと対応していることを示している。

第6章では、自主的に活動する環境下でスタッフ達が子どもとどのように関わり、ように居場所を選択しているか明らかにしている。同時に、スタッフ同士の連携の様態、その居場所や活動内容との関係を明らかにしている。そしてその結果を４点にまとめている。

第7章では、以上第2章から第6章までの各々のまとめと、フリースクールの今後のあり方これからについて述べている。すなわちフリースクール建築空間は、①機能に対応した空間／常に必要とされる空間、②家具を用いてしつらえた可変性のある空間の双方を備えており、そして、これらの空間を手がかりとして、子どもやその活動、子ども同士の関係、子どもとスタッフの関係の編み目の中で、様々な場が形成されていることを解明している。言い換えればどのような場を提供するかは、各フリースクールの子どもやスタッフが、その時々の状況、つまり子どもの登校人数、年齢層、関心事等に応じて決定し、空間に対応させるているのである。

以上のように、本論文はフリースクールという今日的な課題の実態観察と分析を通して考察し，今後のこの種の教育環境に対する基本的な知見を示し、建築計画学の発展に大きな寄与したものである。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。